

大学のまなび

理事（教育・国際）・副学長

奥田 一雄

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。教育・国際担当の理事・副学長の奥田一雄です。この晴れの入学式に当たり、みなさんへ大学生としての心構えについてお話しいたします。

長かった受験勉強ときびしい入学試験を克服し、目標としてきた高知大学に入学できたのですから、その喜びはひとしおでしょう。また、“さあ、これから新しい大学生活を始めるのだ”と想像すると、皆さんはいまその期待と好奇心で胸いっぱいになっているのではないのでしょうか。

忘れていけないのは感謝の心です。高知大学への入学を勝ち取ったのは、皆さん自身の個々の努力だけではなく、保護者の方々・ご家族をはじめとする皆さんを温かく支えてくれた多くの人々のおかげです。謙虚にお礼の気持ちを伝えましょう。

また、新たに始める大学生活にはお金がいります。4年間または6年間です。仕送りだけに頼るのではなく、授業料免除や奨学金を受ける人は多数います。さらに、アルバイトで自ら学費と生活費を補填し、工面する人もいます。大学生活を始めるにあたり、就職するまでに自分に投資するお金の大きさとその意味について考えてみては如何でしょうか。

さて、入学式とオリエンテーションが終わり、授業がスタートする頃になると、新入生の多くは少々とまどいを感じます。なぜなら、生徒ではなく学生と呼ばれ、高校とは打って変わって自由となり、大学の授業の仕方や雰囲気がいままでとまったく違うことを知るからです。しかし、心配は無用、ほとんどの新入生はやがてすぐに大学という新しい環境に適応していきます。

ここで大切なのは、入学当初に抱いていた目標や志がなお鮮やかに存続するこの環境適応のときに、「大学のまなび」へ、できるだけ早く入っていくことです。

人によって多種多様な志があるでしょう。たとえば、大学でこんなことを学びたい・研究したい。しっかり勉強して学校の先生になろう、医者になろうとか。また、自分の可能性を試してみたい、グローバルな問題を解決したいという人もいるでしょう。そのような熱い思いを抱いているあいだに、「大学のまなび」へ転換し、本当の大学生に変化するのです。

大学では、みなさんは授業を受けて勉強しますが、それだけではなく、学部・学科・コースを越えて学生同士が交わり、文化系または体育系のサークル活動も思いきりできます。これらはまだ「大学のまなび」の一部に過ぎません。大学の外へ出て、ボランティア活動や地域・社会活動、さらに、働いてその対価をいただくアルバイト、海外への留学も「大学のまなび」に含まれます。

「大学のまなび」は、みなさんそれぞれが社会に出て通用する力をつける成長の営みです。つまり、頭で知っている知識を社会で応用することで、失敗を含むさまざまな経験と、人と人とのつながり、それと同時に、新たに必要とする知識や能力を獲得します。「大学のまなび」を通じたこのような過程で、みなさんそれぞれがこの世界と社会でどのように生きるかを問うていることとなります。

「大学のまなび」はいくら待っていても、誰からも与えられないでしょう。ここが大事なところ。ここが「大学のまなび」は自分自身が考えて行動に移し、自由に楽しく苦勞して創っていくものです。

ところで、大学の先生は研究者なので、科目を教えるのではなく学問に触れさせてくれます。授業では、先生独自の視点と方法、考え方を用い、問題のありかを探り、分析し、みなさんへ問いかけます。そしてみなさんは、本来もっている知恵をみずから触発し、いままで習ってきたあらゆる知識をフル稼働させます。答えは必ずしも1つとは限りませんし、ない（現時点で解が見つからな

い) かも知れません。だから、大学では“正しい答えはこれだ”とは教わらないでしょう。

答えが複数あり、また、正解のない可能性もあるこの世界で、この社会の中で、みなさん自身が問題を見つけ、どのように解決するかを考えて生きていくということです。これが「大学のまなび」です。みなさんは必ずできます。入学した今このときにその自信と覚悟をもちましょう。

最後にエールを送ります。みなさんすべてがこの高知大学で楽しく充実した大学生活を過ごし、社会へつながる「大学のまなび」を達成されますことを心より祈念いたします。

2018年4月3日

以上